



えひめ にいはま くちやたいこだい

愛媛 新居浜 口屋太鼓台

NPO法人 さしあげプロジェクト

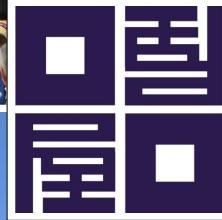
元禄4年の別子銅山開坑を機に、瀬戸内の一漁村から四国有数の工業都市への道を歩み始めた新居浜のまち。粗銅を大阪へ送り、また、銅山で働く人々の生活物資を搬入する重要な物流中継地として、大きな役割を果たした浜宿が「口屋」でした。

平成18年、新居浜発展の礎となった銅（あかがね）の歴史に由来するその名を冠した太鼓台が誕生しました。

新居浜太鼓台まつり

四国三大祭りの一つ。10月15日(一部地区のみ)～18日開催。高さ：約5.5m、長さ：約13m、重さ：約3トンの太鼓台と呼ばれる山車50数台が市内各地区で豪華絢爛・勇壮華麗なかきくらべを繰り広げます。





「新居浜太鼓台を東北へ! プロジェクト」(気仙沼市)



「えひめの祭り 大神輿練習」(松山市)

口屋太鼓台がめざすもの

口屋太鼓台の天幕のデザインは“愛媛県章”。飾り幕には“歓喜坑の鉱夫” “精錬の鉱夫” “口屋あかがねの松と鷹” “口屋松をみる七福神” “一宮さんの氏子の鶴退治”など、別子銅山にちなんだ新居浜独自のモチーフを用いているのが特徴です。これまで、新居浜太鼓台まつりを全国に広く発信するため、市外の観光イベントにも積極的に参加し、震災復興支援を目的とする「新居浜太鼓台を東北へ! プロジェクト～気仙沼みなとまつりで若者交流～」等の民間自主事業を実施してきました。

現在、口屋太鼓台は、「N P O 法人さしあげプロジェクト」が所有・管理しています。さしあげプロジェクトという名前には、指揮者とかき夫と観客の気持ちが一体となって、太鼓台が頭上高くさしあげられるように、さまざまな立場の方と力を合わせてまちを盛り上げ、感動をわかちあいたいとの想いが込められており、太鼓台事業以外にも、若者のまちづくり支援や商店街活性化、高齢者の居場所づくり等に取り組んでいます。

口屋太鼓台については、『平和運行』を信条に新居浜太鼓台まつりに参加するとともに、居住地域に関わらず、新居浜太鼓台まつりを心から愛する方々に、気兼ねなく自分たちの太鼓台としてかき夫参加いただき、祭りを通じた他地域との交流や次世代への文化伝承など、『新居浜市が誇る太鼓台文化の継承と発展を未来志向でお手伝いすること』に柔軟に活用していきたいと考えています。

まちの将来を見据えた諸活動にともにチャレンジしてくださる方、ご連絡をお待ちしています！

